

家兎ノ去勢陰囊ニ於ケル黴毒接種試験

並ニ家兎黴毒ト季節トノ關係

(昭和四年七月十五日受附)

金澤醫科大學細菌學教室(主任谷教授)

柿 下 正 道

緒 論

家兎陰囊ハ黴毒ノ好適接種部位トシテ推奨セラレ、或ハ皮下ニ(Subcutan)或ハ皮内ニ(Intracutan)或ハ經皮感染ニ(Perkutan)應用ノ範圍甚ダ擴シ、然レドモ家兎陰囊ハ可ナリ大ナル囊ヲ形成シ外見上ニモ前方及ビ後方ノ部分ハ既ニ異ナレル相ヲ呈シ、之等ノ各部ガ總テ感受性ニ於テ同一ナリヤ否ヤ疑問ナキ能ハズ、更ニ辜丸ヲ摘出スル時ハ其ノ側ノ陰囊ハ日ヲ經ルト共ニ漸次萎縮シ遂ニハ痕跡ノ狀態ニ迄退行シ陰囊ノ各部ヲ鑑別スルノ不可能ナルニ到ルモノアリ、カカル退行萎縮陰囊ニ於ケル感受性ニ就テハ未ダ文獻上ニ記載ナキガ如シ。偶々余等ノ教室ニテ黴毒ノ再接種試験ノ施行ニ當リ⁽¹⁾片側辜丸ヲ摘出後長時日ヲ經タル數頭ノ家兎ノ兩側陰囊皮内ニ再接種ヲ試ミタルニ辜丸ノ在ル側ノ陰囊ガ陽性ナルニ拘ラズ、去勢側陰囊ハ常ニ陰性ニ終レルヲ觀察シ、此處ニ前述ノ疑問ヲ深クシ、健常及ビ去勢後ノ萎縮陰囊ニ於ケル、各部ノ感受性ヲ比較研究セリ。

本實驗ハ夏季及ビ冬季ノ二期ニ施行セルモノニシテ、同時ニ實驗家兎黴毒ト季節ノ關係ヲモ觀察シ得タリ。

第一篇 家兎ノ去勢陰囊ニ於ケル微毒接種成績

實驗方法 被檢家兎ハ余等ノ先ニ報告セシ研究⁽²⁾ニ基キテ、實驗的家兎微毒ニ於テ最モ感受性强ク、且ツ規則正シキ經過ヲトル、白色在來種ヲ使用セリ。右側辜丸ハ陰囊ヨリ、或ハ陰囊ニ損傷ヲ與ヘザル爲ニ鼠蹊部ヨリ摘出シ、左側ハ對照トシテ何等ノ處置ヲ施サズ、辜丸摘出後三十日乃至四十日ヲ經過シテ感染セリ。尙ホ陰囊萎縮ノ對照トシテ、感染試験當日右側辜丸ヲ摘出セルモノヲ併用セリ。

接種「ス・パ」(「スピロヘータ、バリダ」ハ菌株「I」號ノ十三代目通過ノ家兎辜丸並ニ菌株「XI」號ノ二十四代目及ビ二十九代目通過家兎辜丸ノ食鹽水浮游液ヲ使用セリ。接種部位ハ陰囊ノ内側(陰莖ニ對スル側)外側、前側(脊位ニテ上方)、及ビ後側(脊位ニテ下方無毛ノ部)ノ四ヶ所ヲ選定セリ。辜丸摘出後ハ同側陰囊ニ、右ノ四ヶ所ヲ區別スルコト屢々困難ナルヲ以テ、豫メ手術前ニ兩側陰囊ノ部位ヲ決定シ、「フクシン」ヲモツテ「マーク」ヲ附シ、上記ノ浮游液ヲ〇・二c.c.宛皮内ニ接種セリ。

家兎ハ每週二回觀察シ、觀察期間ハ八十日ヨリ長キハ二百五十五日ニ及ベリ。

表中潛伏期ハ接種ヨリ最初ニ「ス・パ」ヲ證明セシ迄ノ期間、最終日ハ局所症狀ノ存在セル最終日、持續期間ハ症狀ノ發現日ヨリ最終日迄ノ期間ヲ示ス。

實驗成績

實驗ハ三回ニ分チテ行ヘリ。第一及ビ第二實驗ハ、初夏ノ候ニ行ヒタレバ、ソノ陽性率低ク且ツ症狀モ輕微ニシテ、加ウルニ實驗途中ニ於ケル損失多ク、不便少ナカラザリキ。

第一實驗(第一表參照) 被檢家兎ハ五頭ニシテ、右側辜丸ハ陰囊ヨリ摘出シ、其後三十一日目ニ接種セリ。感染材

料ハ菌株「I」號ノ十三代目通過家兎ノ辜丸ヨリ得タルモノニシテ、一視野一個ノ「ス・バ」ヲ有セリ。本實驗ハ單ニ辜丸ノ有無ノ硬結發生ニ及ボス影響ニ關シテ比較セシモノニシテ、接種部位ハ左右共ニ陰囊ノ前側ニ行ヘリ。

ソノ成績ハ第一表ニ示スガ如ク左側陰囊ニ於テ使用家兎ノ全部ニ硬結ヲ發生シ、潜伏期ハ一四日―七三日平均三二日、最終日ハ途中死亡セルモノヲ除ケバ平均一三〇日ニシテ、從テ症狀持續期間ハ平均九四日ナリ、然ルニ右側辜丸

右側辜丸摘出：14. VI. 1927.
 感染日：15. VII. 1927.
 菌株：I 號. 13代. 「ス・バ」 1/I.

第一表

家兎番號	體 重 (g)	左 側 陰 囊			右 側 陰 囊		
		潛伏期 (日)	最終日 (日)	持期間 (日)	潛伏期	最終日	持期間
D116	2050	14	122	109	—	•	•
D117	2360	73	161	89	—	•	•
D118	2080	28	(+)116	•	—	•	•
D119	2300	21	(+)255	•	—	•	•
D120	2020	24	108	85	—	•	•
平均	2162	32	130	94	—	•	•
陽 性 率		5—5 (100.0)%			5—0		

摘出陰囊ニアリテハ症狀ヲ呈セルモノ一例モ認メズ。即本實驗ニ於テハ、ソノ實驗例少ナクシテ確定的トハ云フヲ得ザレドモ少クトモ陰囊ヨリ辜丸ヲ摘出セシ場合ニ於テハ、辜丸ノ存在セルモノニ比シテ、ソノ症狀發現ノ極メテ惡シキ事ヲ想像シ得可シ。

第二實驗(第二表其ノ一及ビ其ノニ參照) 此ノ實驗ハ右側辜丸ヲ鼠蹊部ヨリ摘出シ、家兎ヲ二組ニ分チ、第一組ハ陰囊ノ前側及ビ後側ニ接種シ、第二組ハ内側及ビ外側ニ接種セリ。接種材料ハ菌株「XI」號ノ二十四代目通過家兎ノ辜丸ヨリ得、一視野二乃至三個ノ「ス・バ」ヲ有セリ、ソノ成績ハ第二表其ノ一及ビ其ノニ示セリ。

第一組(第二表其ノ一參照)ハ右側辜丸摘出後四十日目ニ感染セシメタルモノニシテ、使用家兎四頭中三三日及ビ五日目ニ各一頭宛死亡シ、長期ニ渡リテ觀察セシモノハ僅カニ二頭ニ過ギザレドモ、左側陰囊ニアリテハ前側ニ於テ接種後一一日目ニ一頭陽性ノ成績ヲ得、右側ニ於テモ、前側ニ一頭陽性成績ヲ得タルニ過ギズ、對照家兎(感染當日右側辜丸ヲ摘出セルモノ)ニ在リテハ、左右ノ陰囊ノ前側ニ於テ、二頭共ニ硬結ヲ發生シ、然モ辜丸ヲ摘出セザル左

第 二 表 其ノ一

右側辜丸摘出：17. V. 1928.

感染日：26. VI. 1928.

菌株：XI號. 24代. 「ス・パ」2/I.

家 兔 番 號	體 重	左 側 陰 囊						右 側 陰 囊					
		前 側			後 側			前 側			後 側		
		潛 伏 期	最 終 日	持 期 續 間	潛 伏 期	最 終 日	持 期 續 間	潛 伏 期	最 終 日	持 期 續 間	潛 伏 期	最 終 日	持 期 續 間
D2	2190	—	•	•	—	•	•	24	(+)30	•	—	•	•
D4	2170	111	•	•	—	•	•	—	•	•	—	•	•
D8	1800	(+)51	•	•	—	•	•	—	•	•	—	•	•
D10	2150	(+)33	•	•	—	•	•	—	•	•	—	•	•
平均	2078	111	•	•	—			24			—	•	•
陽 性 率		4—1 (25.0%)			4—0			4—1 (25.0%)			4—0		

對 照 家 兔

D42	1650	20	93<	74<	—	•	•	20	50	31	—	•	•
D43	1650	34	(+)85	•	—	•	•	44	50	7	—	•	•
平均	1650	27	93<	74<	—	•	•	32	50	19	—	•	•
陽 性 率		2—2 (100.0%)			2—0			2—2 (100.0%)			2—0		

側陰囊ニ於テハ、ソノ潛伏期僅カニ早ク、且ツ症狀ハ右側ニ比シテ著明ナリキ。後側ニ於テハ何レノ家兔ニモ病變ヲ認メズ、本實驗ニ於テハ途中ニテ死亡セシモノ多ケレドモ、陰囊ニ何等ノ損傷ヲ與フル事ナク、辜丸ヲ摘出セシ場合ニアリテモ、摘出後日數ヲ經過セシモノニ於テハ、ソノ感受性多少惡シク、殊ニ辜丸ノ有無ニ關セズ陰囊ノ後側無毛ノ部ハ、前側ニ比シテ感受性ノ劣レルヲ視フニ足ラン。

第二組(第二表其ノ二參照)ノモノハ右側辜丸摘出後三五日目ニ左右兩側陰囊ノ、内及ビ外側ニ接種セルモノナリ。被檢家兔三頭ニツキテミルニ、内二頭ノ左側對照陰囊ニ於テハ内外共ニ同時ニ硬結ヲ發生シ、ソノ潛伏期ハ平均二二日ナリ、D二七號ハ接種後一一日目ニ左側陰囊ノ外側ニ於テ、定型的

第 二 表 其ノ二

右側睾丸摘出：22. V. 1928.

感染日：26. VI. 1928.

菌株：XI號. 24代. 「ス・パ」 2/I.

家 兔 番 號	體 重	左 側 陰 囊						右 側 陰 囊					
		外 側			内 側			外 側			内 側		
		潛 伏 期	最 終 日	持 期 續 間	潛 伏 期	最 終 日	持 期 續 間	潛 伏 期	最 終 日	持 期 續 間	潛 伏 期	最 終 日	持 期 續 間
D12	2150	24	(+)43	•	24	(+)43	•	—	•	•	—	•	•
D14	2200	20	(+)41	•	20	(+)41	•	—	•	•	—	•	•
D27	2000	111	•	•	—	•	•	—	•	•	—	•	•
平均	2117	22	•	•	22	•	•	•	•	•	•	•	•
陽 性 率		3—3 (100.0%)			3—2 (66.7%)			3—0			3—0		

對 照 家 兔

D51	1500	—	•	•	20	72	53	20	72	53	24	65	42
D55	1560	—	•	•	20	50	31	20	58	39	—	•	•
D56	1560	34	50	17	34	58	25	—	•	•	44	50	7
平均	1540	34	50	17	25	60	36	20	65	46	34	58	25
陽 性 率		3—1 (33.3%)			3—3 (100.0%)			3—2 (66.7%)			3—2 (66.7%)		

硬結ノ發生ヲ認メタリ。他ノ二頭ハ四
 日—四三日ニシテ死亡シ、以後ノ觀
 察ヲナス事能ハズ、又右側睾丸摘出ノ
 陰囊ニ於テハ、何レノ側ニモ硬結ヲ認
 メズ。對照ノ家兔ニ於テハ、三頭中左
 側陰囊ノ外側ニ硬結ヲ發生セシモノ僅
 カニ一頭ナルモ、内側ニ於テハ三頭共
 ニ陽性ナリ。右側陰囊ニ於テハ兩者同
 様ニ二頭宛發生セリ、而シテ外側ノ方
 ハソノ潛伏期短シ、本實驗ニ於テハ辜
 丸摘出ト同時ニ接種セシモノニアリテ
 ハ左右ノ陰囊ニ於テ著シキ差異ナキ
 モ、辜丸ヲ摘出シテ日數ヲ經過セシ陰
 囊ハ、ソノ感受性減退セルモノナル事
 ハ認ムル事ヲ得可ケン。而シテ内外兩
 側ノ比較ニ於テハ優劣ナキモノノ如
 シ。

第三實驗(第三表參照)

ハ冬期ニ至
 リテ行ヒシモノナリ、右側辜丸ハ鼠蹊

第 三 表

右側辜丸摘出：13. XI. 1928.
 感染日：15. XII. 1928.
 菌株：XI號. 29代. 「ス・バ」30/I.

家兎番號	體 重	左 側 陰 囊						右 側 陰 囊					
		前 側			後 側			前 側			後 側		
		潜伏期	最終日	持期間	潜伏期	最終日	持期間	潜伏期	最終日	持期間	潜伏期	最終日	持期間
E33	1680	31	(+)58	•	31	(+)58	•	24	(+)58	•	—	•	•
E36	1850	24	73	50	24	38	15	24	45	22	24	45	22
E37	2080	9	73	65	9	73	65	9	73	65	31	45	15
E38	2450	24	80<	57<	—	•	•	38	80<	43<	—	•	•
E58	2000	6	65	60	6	65	60	6	73	68	31	52	22
平均	2012	19	73<	58<	18	59	47	20	68<	50<	29	47	20
陽 性 率		5—5 (100.0%)			5—4 (80.0%)			5—5 (100.0%)			5—3 (60.0%)		

對 照 家 兎

E133	1950	9	(+)58	•	31	(+)58	•	6	(+)58	•	6	(+)58	•
E134	1610	6	(+)66	•	24	(+)66	•	6	(+)66	•	31	(+)66	•
E135	1970	6	80<	75<	24	52	29	6	80<	75<	24	45	22
E136	2000	6	38	33	24	80<	57<	6	31	26	24	45	22
E137	1940	6	59	54	9	52	44	24	59	36	24	59	36
平均	1894	7	59<	54<	22	61<	43<	10	57	46<	22	50	27
陽 性 率		5—5 (100.0%)			5—5 (100.0%)			5—5 (100.0%)			5—5 (100.0%)		

部ニ於テ、陰囊ニ損傷ヲ與フル事ナク摘出シ、摘出後三二日目ニ菌株「XI」號ノ二十九代目通過家兎ノ辜丸ヨリ材料ヲ得テ接種セリ、「ス・バ」ハ一視野中三十個ヲ有セリ。

實驗家兎ノ五頭ニツキテ見ルニ、左側對照陰囊ニアリテハ、ソノ前側ニ於テ使用家兎ノ全部ニ硬結ヲ生ジ、後側ニテハ四頭ニ於テ陽性成績ヲ得タリ、ソノ潜伏期ニ就テ見ルモ兩者差異ナク、症狀ノ持續期間ニ於テ後側僅カニ短カシ、辜丸ヲ摘出セシ右側陰囊ニ於テモ前側ニ於テハ全部ニ硬結ヲ

生ゼシモ、後側ニ於テハ三頭ニ於テ陽性成績ヲ得タルノミナリ。又前後ニツキテ潜伏期ヲ比較スルニ、後側ハ九日間長シ、症狀ノ持續期間モ後側ハ遙カニ短カシ。兩側ノ陰囊ニツキテ觀ル時ハ一般ニ右側ハ潜伏期長ク、且ツ症狀ノ持續期間短カシ。

對照ノ家兔ニ於テハ、左右陰囊ノ前後兩側ニ於テ全部硬結ヲ生ジ、ソノ潜伏期モ左右殆ド差異ナカリキ。只症狀ノ持續期間ハ辜丸摘出陰囊ニ於テ、僅カニ短カシ、前後ノ兩方ヲ比較スルニ後側ハ潜伏期長ク、症狀ノ持續期間短カシ。

本實驗ニ於テハ、對照ノ家兔ニ在リテハ、左右陰囊ニ於テ殆ド差異ナク、只前後ヲ比較スルニ、後側ハ多少ソノ病勢劣レルノ觀アルノミ、然レドモ辜丸摘出後日數ヲ經過セシモノニアリテハ、左右陰囊ノ前側ニ於テハ差異ヲ認メ難ケレドモ、後側ニ於テハ辜丸摘出陰囊ノ方ハ、ソノ陽性率、發現期及ビ症狀持續期間ニ於テ劣レリ。

第二篇 家兔黴毒ト季節トノ關係

實驗的家兔黴毒ノ研究ニ當リ、季節ノ重大ナル影響ヲ及ボス事ハ、曩ニ赤津⁽³⁾安達⁽⁴⁾土門及ビ下田⁽⁵⁾等ノ報告ニ依リテ明カナル處ナレドモ、最近山本⁽⁶⁾ハ夏、冬ノ兩期ニ於テ、コレヲ實驗的ニ證明セリ、又橋口⁽⁷⁾ハ多數ノ家兔ニ於テ全身症狀ト季節トノ關係ニツキテ報告シタリ、氏等ノ述ブル處ニ依レバ冬ノ候ハ、接種黴毒ノ陽性率ノ高キ事、潜伏期ノ短カキ事、局所症狀ノ著明ナル事、並ニ全身症狀ノ發生率ノ多キ事等ノ諸點ニ於テ、ソノ成績常ニ佳良ニシテ、春秋コレニ次ギ、夏季頗ル不良ニシテ、潜伏期ノ著シキ延長ヲ來シ、然モ其ノ症候及ビ經過ハ常ニ非典型的ナル事ヲ報告セリ、又池上⁽⁸⁾橋口⁽⁹⁾ハ家兔「フランベシア」ニ於テ同様ノ成績ヲ報告セリ。

余等ハ前述ノ陰囊接種試驗ニ於テ、第一及ビ第二實驗ハ夏ノ候(六―七月)ニ、第三實驗ハ冬季(十二月)ニ行ヒシガ、前者ニ於テ陽性率甚ダ惡シキヲ認メタルヲ以テ、此處ニ余等ノ教室ニ於テ使用セシ家兔ニツキテ、統系的觀察ヲ試ミ

タリ。

原著 柿下Ⅱ家兎ノ去勢陰囊ニ於ケル黴毒接種試験並ニ家兎黴毒ト季節トノ關係

一四一〇一

材料ハ余等ノ教室ニ於テ分離セシ七株ニ就キ、陽性率並ニ潜伏期ノ比較的安定セリト思ハルル五代目家兎辜丸通過以後ノモノニテ、昭和二年一月ヨリ本年四月迄ニ至ル二ケ年四ヶ月ノ間ニ於テ、接種シ二ヶ月以上ヲ觀察シ得タル家兎ノ接種局所成績ヲ纏メタリ、大部分ノ家兎ハ辜丸内接種ヲ行ヒシモノナレドモ、一部ニ於テハ、陰囊皮内ニ接種セシモノヲモ加ヘタリ、接種材料ノ「ス・バレ」ノ濃度ハ、 $\frac{1}{2}$ 。 $\frac{1}{20}$ ノ間ニ、接種量ハ〇・二—一・〇 c.c.ノ間ニアルモノナリ。

調査成績（第四及ビ第五表参照）

被檢家兎數

被檢家兎ハ總數四九八頭ニシテ之ヲ月別ニ依リテ分テバ第四表ニ示スガ如シ、即八月ハ使用家兎最モ

第四表

接 種 月 別	陽 性 率		潜 伏 期		
	接種數—陽性數	%	最長(日)—最短(日)	平均(日)	
I	37 — 37	100.0	62 — 12	26.8	
II	45 — 45	100.0	47 — 9	19.1	
III	30 — 30	100.0	68 — 10	23.2	
IV	41 — 41	100.0	35 — 8	18.1	
V	71 — 67	94.4	73 — 10	25.3	
VI	67 — 60	89.6	111 — 13	31.9	
VII	38 — 35	92.1	112 — 14	34.9	
VIII	21 — 18	85.7	86 — 13	41.5	
IX	28 — 28	100.0	46 — 10	23.8	
X	35 — 35	100.0	28 — 6	16.1	
XI	49 — 49	100.0	53 — 9	22.2	
XII	36 — 36	100.0	64 — 5	18.1	
總 括	498 — 481	96.6	112 — 5	24.6	

第五表

季 節	陽 性 率		潜 伏 期		
	接種數—陽性數	%	最長(日)—最短(日)	平均(日)	
春 季 III—V	142 — 138	97.2	73 — 8	22.7	
夏 季 VI—VIII	126 — 113	89.7	112 — 13	34.4	
秋 季 IX—XI	112 — 112	100.0	53 — 6	20.7	
冬 季 XII—II	118 — 118	10.00	64 — 5	21.2	
寒 季 16/IX—15/V	301 — 301	100.0	68 — 5	20.7	
暖 季 16/V—15/IX	197 — 180	91.4	112 — 10	31.1	

少ナク二十一頭ニシテ五及ビ六月ハ最も多ク七一及ビ六七頭ニ上レリ。

陽性率^{〇〇} 陽性率ハ一月ヨリ四月迄及ビ九月ヨリ十二月迄ハ一〇〇%ノ成績ヲ得、次ハ五月(九四・四%)七月(九二・一%)六月(八九・六%)八月(八五・七%)ノ順序ニ低下セリ。以上ノ成績ヲ春夏秋冬ニ分テバ、第五表ニ示スガ如ク秋季及ビ冬季ハ成績最可良ニシテ(一〇〇・%)春季コレニ次ギ(九七・二%)夏季最悪シ(八九・七%)。

潜伏期^{〇〇} 次ニ潜伏期ニツキテミルニ、最も短カキハ十月ニシテ平均一六・一日ナリ、一般ニ二月ヨリ四月迄及ビ九月ヨリ十二月迄ノ間ニ於ケル潜伏期ハ何レモ三週間前後ニシテ、一月ノミハ多少延長シテ二六・八日、五月ハ二五・三日、六月、七月、八月ノ夏季ニ於テハ一ヶ月以上ノ潜伏期ニシテ八月ノ如キ實ニ四一・五日ヲ要セリ。

以上ノ成績ヲ春、夏、秋、冬ニ分テバ、秋、冬、春ノ三季ハ殆ド同一ニシテ三週間夏季ハ特別ニ長ク三四・四日ヲ要セリ。

總括^{〇〇} 以上ノ成績ヨリ、一ヶ年ヲ寒暖ノ二期ニ分テテ觀察スルニ、九月十六日ヨリ翌年五月十五日迄ニ接種セルモノハ陽性率一〇〇%潜伏期平均二〇・七日、五月十六日ヨリ九月十五日迄ニ接種セルモノハ陽性率九一・四%潜伏期平均三・一日ナリ、更ニ一ヶ年ヲ總括スレバ、陽性率ハ九六・六%、潜伏期ハ平均二四・六日ニシテ、余等⁽¹⁰⁾ノ先ニ報告セシ五代目以後ノ平均潜伏期二十五日ト比較シ、全然同一結果ヲ得タリ。

以上ノ調査ニ依リテ、余等モ亦家兎ニ於ケル實驗黴毒ハ夏季ノ候ニ於テハ潜伏期ノ延長。陽性率ノ低下。症狀ノ輕度ナルヲ統系上明カニスルヲ得タリ。

Kolle⁽¹¹⁾ニヨルニ Truffi 株ニ於テモ尙ホ十%ノ Nutter ヲ生ズルトノ事ナレドモ、其ノ季節的關係ニ就テノ報告ナキヲ以テ、余等ノ實驗ニ比較スルヲ得ザレドモ、余等ノモノハ、今日迄ノ經驗上唯夏季ニ於テノミ約十%ノ Nutter ヲ生ズルヨリ觀テ、Kolle 氏等ノモノモ或ハカカル季候ノ影響モ關係セルニ非ズヤト想像セラル。從テ前述ノ陰囊感染試驗ニ於テ、冬季ニ施行セル第三實驗ニテ、去勢陰囊ト對照トノ間ニ大差ヲ認メザリシハ、全ク好適季節ノ實驗ナリシガ

爲ニ兩者ノ感受性ノ差ガ覆レテ發現セザリシモノト解ス可ク、夏季ニ施行セル實驗ニ於テ、始メテ著明ナル差ヲ認メ得タルモノト云フ可ク、去勢後時日ヲ經テ、萎縮セル陰囊ハ一般ニ黴毒感染ニ對シ、感受性惡ク、陰囊ノ後側ハ前側ヨリモ感受性劣ルモノナリト結論ヲ確實ニシ得タリト信ズ。

結 論

一、辜丸ヲ摘出後一定日數ヲ經過シテ萎縮セル陰囊ニ「ス・バ」ヲ皮内接種スル時ハ、辜丸ヲ摘出セザル陰囊ニ比シテ、陽性率低ク、潜伏期長ク、且ツ症狀輕シ、辜丸摘出直後ニ感染セシメタルモノニ在リテハ、兩者ノ間ニ著明ナル差異ヲ認メズ。

二、陰囊ヲ前側、後側、内側及ビ外側ノ四ヶ所ニ分チテ皮内接種スルニ、辜丸ノ有無ニ關係ナク、前側、内側及ビ外側ニ於ケル陽性率ハ差異ナク、後側無毛部ハ前三者ニ比シテ感受性劣レリ。

三、家兎黴毒ハ五月中旬ヨリ九月中旬ニ至ル暖季ニ於テハ、陽性率惡シク、約十%ノZellerヲ生ジ、潜伏期モ一ヶ月以上ニ延ビ、其他ノ季節ニ於テハ毎常陽性ニ、且ツ潜伏期モ平均三週間内外ナリ。

稿ヲ終ルニ臨ミ當ニ御懇話ナル御指導ト御校閲ノ勞ヲ賜リシ恩師谷教授ニ深甚ノ感謝ノ意ヲ表ス。

文 獻

- 1) 谷、柿下及齋藤：十全會雜誌、昭和4年、34卷、頁。
- 2) 柿下及齋藤：十全會雜誌、昭和4年、34卷、84頁。
- 3) 斎藤：日本微生物學會雜誌、大正10年、15卷、477頁及895頁。
- 4) 安達：皮膚科紀要、大正14年、5卷、205頁。
- 5) 土門及下田：皮膚科紀要、昭和2年、9卷、169頁。
- 6) 山本：皮膚科紀要、昭和3年、12卷、225頁。
- 7) 橋口：〔ウエス〕、昭和4年、3卷、99頁(學會抄録)。
- 8) 池上：皮膚科紀要〔モノグラフ〕、實驗的〔フランペツ〕ノ臨床的及ビ病理組織學的研究。
- 9) 橋口：〔ウエス〕、昭和4年、3卷、71頁。
- 10) 谷、柿下、廣田、及井上：衛生學傳染病學雜誌、昭和2年、23卷、347頁。
- 11) Kolle & Evers：Deutsche med Wschr 1926 S. 557.